

会 議 録

[所管課 水谷公民館]

会議の名称	令和元年度第2回水谷地区公民館運営審議会
開催日時	令和元年12月3日(火) 午前10時～正午
開催場所	狭山市学校支援ボランティアセンター(住所:狭山市狭山台1-21 狭山元気プラザ内A棟3F)
出席者	(委員) 関根健一委員 中島秀行委員 加藤みはる委員 小森和彦委員 (事務局) 和田晋治館長 寶田一義主査 (狭山市学校支援ボランティアセンター) センター長 諸井寿夫氏 事務局 局長 猪俣氏、事務 内野氏 狭山市教育委員会社会教育課 鈴木氏
会議次第	なし
会議資料	「狭山市学校支援ボランティアセンター」資料
会 議 内 容	
<p>【内容】センター長の諸井氏から、PowerPointを使って活動内容の説明を受けた。その後、水谷公民館においても、館区内の小・中学校を対象とした同様の取組みが可能かどうか意見交換した。</p> <p>〈狭山市学校支援ボランティアセンター(SSVC)の設置経緯〉 開かれた学校づくりのために地域の教育力を生かし学校への支援を進め、子どもたちの「生きる力」を育むことを目的に2007年4月狭山市教育委員会が設置した機関。センター運営は「さやま市民大学同窓会」が狭山市より委託され、市民ボランティアスタッフで行っている。</p> <p>〈SSVCの主な業務〉 ①学校支援に関する情報の集約と発信 ②学校支援ボランティアバンクの設置と運営 ③市立小・中学校からの支援要請に基づくボランティアの調整と派遣 ④学校支援ボ</p>	

ランティアやコーディネーターの育成 ⑤運営についての関係機関との連携調整
※現状では学習支援が大半を占めている。

〈学習支援の内容〉

小・中学校の授業の中で、教員を補佐する形で児童・生徒の学習支援を行う。例えば、小学校算数の授業で、九九が言えるようになったかを聞いてあげてチェックしたり、また、中学校の英語の授業で、教員の出した課題ができているかをチェックしてあげたりしている。

〈学校にお願いしていること〉

①計画的な支援計画 ②先生との意思疎通 ③支援者の存在を明確に

〈課題〉

①2020年指導要領への対応 ②「学習習慣の定着化・基礎学力向上」施策対応
③コミュニティスクール（学校運営協議会）の導入検討 ④人材育成（世代交代・コーディネーターの育成）

〈その他〉

- ・学校が支援者のために「感謝のつどい」を開き、花や手紙をプレゼントしてくれる。とても励みになる。
- ・支援者には年度末に事務局から、実績の報告を兼ねてお礼状を送付している。
- ・支援者の個人情報（住所・電話番号など）管理には十分気を付けている。
- ・現在約400人のボランティアがいるが、男性では70歳代が多い。女性では60歳代が多い。70歳代になると両親やパートナーの世話で少なくなると思われる。
- ・「社会参加」が健康の秘訣であると考えている。
- ・先生には話せなくても、高齢者になら話せることもあるようだ。
- ・大人が学校に入ることで、いじめの防止にも効果があると思う。

〈意見交換〉

- ・地域には、力をもった優秀な人が必ずいる。埋もれてしまっている人材を掘り起こし、活躍してもらおう取組みにもなる。
- ・最初はやれる範囲での取組みでも、まず水谷地区が取り組むことで、それがきっかけとなり大きな取組みになれば素晴らしいことである。